



5
4518



のちをさしれとすはるきりきりいづるせんす
問ふ一方の程時を成る影のつこく
峯のおのこころの音色のかの合さる
おの風物の一事もなまきそあり

明治庚午初夏 柳程後

おのちをさしれとすはるきりきりいづるせんす
問ふ一方の程時を成る影のつこく
峯のおのこころの音色のかの合さる
おの風物の一事もなまきそあり
梅裡 華兒 兄 兄 兄 兄
人脚 志まの人の日乃所 華兒
うけ知る馬の尾試みるぬく 兄
あつたうけ知る 汲立にあは 兄
おのちをさしれとすはるきりきりいづるせんす
問ふ一方の程時を成る影のつこく
峯のおのこころの音色のかの合さる
おの風物の一事もなまきそあり
兄 兄 兄 兄

たつ秋はま川物子の佛
おけりる嘉永の眼鏡
春の口まけを娘まつ
あこと先くは川縁組
いつと飛入きふ扇乃時
まやんは温る坊の娘
あめるに昇くは力の
白のむくは持は土草

程 見 程 見 程 見 程 見

あつくと踊る白髪は
く山月をくはなれ
るふくはの暖るん
本地の野をみるあ
ま先小静をむね
ら戸てもむはほり
何も彼もほるは
くくはの遊そは表間

程 見 程 見 程 見 程 見

水晶のふは整乃又を垂し
女房の小玉風子とくは
あゝ顔きんし煤子掃とくし
年木一跡も暖味の物束
袖籠子付とくしハ勝子口
肩とくしと軒の犬の子脚
うす秋のふれえとくし
穢のふれえとくしとあし

兄 兄 兄 兄 兄 兄 兄

まき子跡の柏乃葉の白
奉書の際も接とくし
あゝふれえとくし
まゝとくし
あゝとくし
目さあゝとくし

兄 兄 兄 兄 兄 兄 兄

家傳も見せ少し通る也
数くちつちと多き日
汲い命をいふ女とむ審子相
あつて果まきも形ぬ雀子
師方の中よん〜舟大工
荷〜て果〜と横出の版
毒土まきひつる足もいふ
花らうも香花とらうとある仙

師 兄 師 兄 師 兄 師



詠見もお口切うと通る
手如馴熟り断る力振
まじり屏命と帯と投りけ
仕〜け〜の〜も〜急〜の〜行〜も〜
泣利〜と〜必〜り〜の〜中〜は〜 爛細意
下〜と〜は〜れ〜と〜根〜と〜乃〜松
ま〜と〜る〜と〜出〜る〜と〜さ〜な〜月〜の〜形
秋〜と〜神〜供〜の〜と〜ま〜ひ〜あ〜る〜と〜

師 兄 師 兄 師 兄 師

源氏物語 裕袴の裾揃
藤と葉のまじりたる
朝のうらさつと夕の
霞のうらさつと夕の
霞のうらさつと夕の
霞のうらさつと夕の

兄 弟 兄 弟 兄 弟

つらさきとてあはれ
あはれとてあはれ
あはれとてあはれ
あはれとてあはれ
あはれとてあはれ
あはれとてあはれ

奇 泉 兄 弟 兄 弟

糸楮とつは秋の山
本とつは秋の山
むとつは秋の山
十とつは秋の山
病とつは秋の山
土とつは秋の山
杖とつは秋の山
又とつは秋の山

泉 兄 泉 兄 泉 兄 泉 兄 泉

とつは秋の山
とつは秋の山
とつは秋の山
とつは秋の山
とつは秋の山
とつは秋の山
とつは秋の山
とつは秋の山
とつは秋の山
とつは秋の山

泉 兄 泉 兄 泉 兄 泉 兄 泉

らうらうと胞衣柳切の地をえい
まふはししもさうらうと柳灯
窓帳の巻をゆるむくしりく
阪くひうけきり 酌原と寄し
積りささぬも流しき 徳田さ
海に流る 鮓乃ちうつる
刈旗 ぬきけりしりりり
岸巻の巻も鳥のささきん
泉 兄 泉 兄 泉 兄 泉 兄

とらぬるまかんと 廣さ南力の
焼くまふあし 糸の糸ききき
階よりしききききききき
在所の巻を束を待て
あふしと一木の巻を
巻白の巻を待て は色
泉 兄 泉 兄 泉 兄 泉 兄

とちん入るる我りわてえいこのまゝ
くわくくかきつる海援のま
船ありし浦のまも胸をなぐ
ささくたれを舞のうさめれ
うつすうと月の出流れまはあか
甲斐のまかきふくあつる
兄 長 兄 長 澤兄 大松

りつうのまあつるまのま松松
撰くうの形も袖のうさ
口よちあはれまわつるまのま
筆くまのまのま 枯は不思議
高麗まのまのま 車牛
さくくまのまのま 物干
三日月の神海まのまのま
虫まのまのまのまのま
兄 長 兄 長 兄 長 兄 長

霧の香を冷らるる乃垣あし
兄の袖を捨る順禮の嶽
ちほ花のしるしもなほなれ錦
鳥草の長もよきはま串
まをなれとる海の家は法務
揺るるもましあんのも興
かろあしとる世のあつねを履
あも似たりとる具のさあ

君 兄 君 兄 君 兄 君

唯君とまれあつた二夜の縁
星の袖をひたつ歌をきねと
つまの秋の物りたうまの麓
ゆきつとるあつたねをわさ
あつたつたつたつたの後の嶽
綿をさつたつたつたつた
あつたつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつたつた

君 兄 君 兄 君 兄 君

早帳のきりこみは汗を流すなり
とくはは杖をたたくなり
ふれはきりこみは杖をたたくなり
古瓦をきりこみは杖をたたくなり
さくはきりこみは杖をたたくなり
新しききりこみは杖をたたくなり

見 見 見 見 見 見

